



10月

全社的なロジスティクス革新を推進しましょう

ロジスティクス 強調月間2012

サプライチェーン改革における
ロジスティクスの進化



10月はロジステ

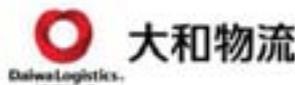
サプライチェーン改革に

掲載内容のご案内

- ロジスティクス強調月間2012 サポーター 一覧 1~2
42社2大学のサポーターを紹介します。
- ロジスティクスコンセプト2020 3~11
JILSが2012年6月に発表したロジスティクスコンセプト2020を紹介します。
- ロジスティクス強調月間2012 関連プログラムのご紹介 12~14
ロジスティクスの推進を目的に、東京・名古屋・大阪・福岡にて講演会・事例発表会を開催いたします。

ロジスティクス強調月間2012 サポーター(※)一覧

〈企業〉



(※)サポーター：ロジスティクス強調月間2012の活動についてご支援いただく企業・大学

イクス強調月間

おけるロジスティクスの進化

強調月間の主旨

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会では、設立以来、産業界をはじめ社会全体にロジスティクスの意義を普及・促進するため、毎年10月をロジスティクス強調月間と定め、産官学の協力を得て、普及キャンペーンの活動を展開しています。

ロジスティクス推進に向けて

ロジスティクス強調月間2012は、公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会が2012年6月に発表したロジスティクスコンセプト2020の内容に基づき、活動を展開いたします。

1 経営者層への働きかけ

ロジスティクスの担当部門から、ロジスティクスの重要性を経営トップに認識してもらえよう働きかけを行ってください。例えば「役員会でロジスティクスの意義について意見交換を行う」「自社のロジスティクス戦略の現状と成果を報告する」「自社が解決すべきロジスティクスの問題提起や期待される効果を示す」「他社の経営トップとロジスティクスについての意見交換を行ってもらう」など、ロジスティクスを経営の中核に位置づけましょう。

2 社内他部門への働きかけ

ロジスティクスの担当部門から、社内他部門へ自社のロジスティクスの現状報告と問題解決のための場作りや、社内研修会などの働きかけを行ってください。例えば「社内他部門とのロジスティクスに関する意見交換会を開催する」「社内実務者によるロジスティクス研究会を持つ」「社内表彰制度など現場の意欲を喚起する働きかけをする」など、全社的にロジスティクスマインドを広げましょう。

3 社内報の活用

社内報などを通じて、ロジスティクス認識の普及と理解の促進をはかり、自社のロジスティクスの推進に全社的に取り組むことを呼びかけましょう。

(大学)



株式会社PAL



フェデックス



成蹊大学



富士通株式会社



吉川運輸株式会社



フジトランス コーポレーション



リコーロジスティクス 株式会社



あなたと、つぎの景色へ



Mitsubishi Logistics Corporation



月刊マテリアルフロー



北王流通株式会社



月刊ロジスティクス・ビジネス

お問い合わせ



公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 普及開発部

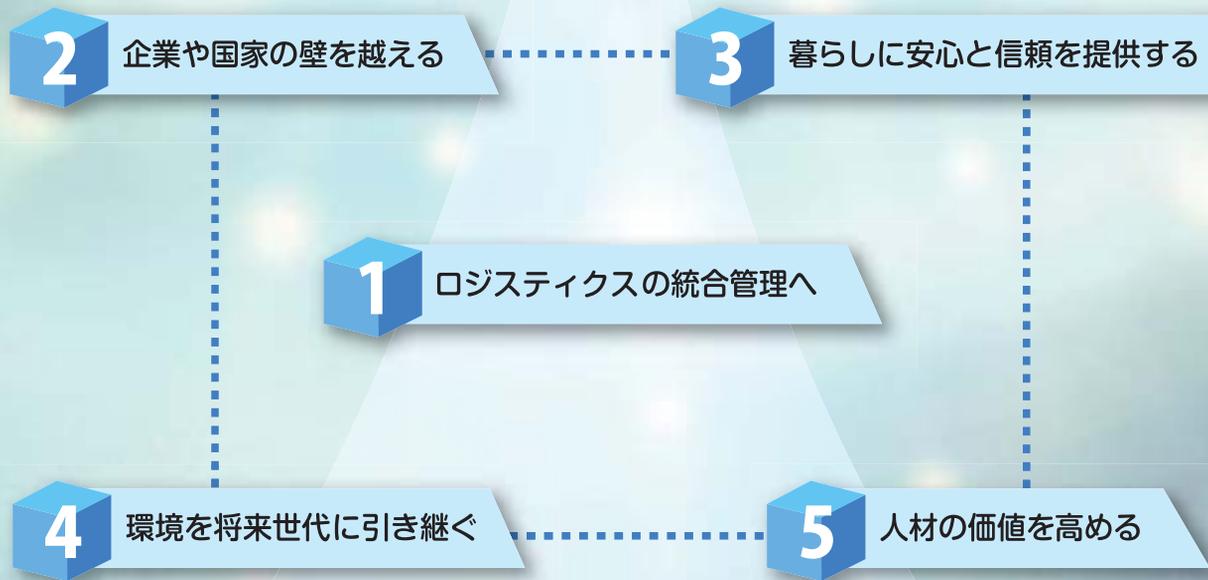
〒105-0014 東京都港区芝2-28-8 芝2丁目ビル3F TEL : 03-5484-4021 FAX : 03-5484-4031

<http://www.logistics.or.jp>

持続可能な発展

あるべき社会・あるべき産業・あるべきライフスタイル

これからのロジスティクスのあるべき姿



環境に与える
負の側面の顕在化

現実味を帯びる
資源の有限性

日本の主力産業たる
製造業の環境変化

大量生産・大量消費
社会の終焉

グローバル・
ボーダレス化

新興国の産業競争力
の高まり

知識・コンテンツや
情報通信による産業変革

これからのロジスティクスの あるべき姿

ロジスティクスを物流管理の延長で語る時代は終わりました。戦後長く先進工業国であった日本は、今や大量生産・大量消費を前提としたこれまでの産業構造とそれを基盤とした社会構造から、大きく転換しつつあります。その中でロジスティクスのあり方も、物の移動だけではなく、産業や生活の場に届けられる価値に主眼を置いたものへと、変革を迫られています。

現代の社会・産業は、それが環境に与える負の側面が顕在化し、資源の有限性が現実味を増すに伴って、環境への調和と資源の有効活用に立脚した、持続可能な構造へと転換することが求められています。また、日本はそのような社会・産業構造の転換を先導する立場にあります。

一方で、日本を取り巻く状況に目を転じると、先進国の競争優位を支えてきた科学技術や教育・インフラ等の社会システムが普遍化して新興国の産業化が進展すると同時に、これまで日本の主力産業であった製造業を取り巻く環境が変化して来ています。それに伴い、国内雇用が縮小し、より競争的で流動的な労働環境へ移行する等の影響も顕在化しています。これに対して、インターネット等の分野で新たな産業が生まれたり、あるいは製造・流通・出版・金融等の既存の企業が、知識・コンテンツや情報通信に着目した新たなビジネスモデルへと転換したり、あるいは環境問題に対応するため、省エネルギーや代替エネルギー、リサイクル等を担う新たな産業が誕生するといった動きも出てきており、今や日本の産業構造が大きく変化しつつあります。

このような変化に対して引き続き日本の産業活動と国民生活を維持・発展させるため、これからのロジスティクスは、その基本に立ち戻って企業内の統合管理を徹底したうえで、全体最適の視野を拡げて、グローバル化するサプライチェーンの効率性と持続可能性を高め、安全・安心な生活に貢献するようなマネジメントへと発展しなければなりません。また、ロジスティクスは産業および社会における上記のような役割を果たすだけでなく、その領域をさらに拡大し、社会の持続可能なライフスタイルへの変革の一端を担うことも望まれます。

1

ロジスティクスの統合管理へ

ロジスティクスとは、需要に応じて調達、生産、販売、物流や回収・廃棄等の活動を同期化させるためのマネジメントです。顧客のニーズを原点に据え、必要なモノを、必要なときに、必要なところへ、必要なだけ、必要な状態で、しかもできるだけ効率的に供給するためには、企業内の様々な部門の機能を統合的に管理・運用することが必要です。調達、生産、販売、物流等の各部門が個別に最適化を志向すると、高コスト、過剰在庫や欠品、物流品質の低下などの経営上のロスや環境負荷の増大を招いてしまいます。そこで、「全体最適」を志向するロジスティクスの考え方が必要になります。また、これを実効性のあるものとするためには、全社的な経営課題として捉え、実践していかねばなりません。



2

企業や国家の壁を越える

これからの時代、モノの動きを企業単位で捉える視点だけでは不十分です。製品が消費者に届くまでのサプライチェーン、さらに静脈物流まで含めて考えると、モノの流れには実に多くの企業・公共団体・個人が関与し、また、多くの場合には複数の国が経由されていることが分かります。これからの時代においては、企業を超えて、さらには国境を越えて物の動きを最適化していくことがより必要です。

企業間となれば、利害関係が対立することもありますから、協調を阻む壁はさらに高くなりますが、企業単位での最適化が無秩序に志向されると、様々な非効率が生じることも事実です。勝者なき消耗戦を避けるためには、企業を超えた最適化を実現するという理念のもと、協調すべき点は協調する姿勢が求められます。そのためには、個々の利害を超えた共通の価値観を醸成していくことが必要でしょう。

加えて、現代のサプライチェーンは国境を越えて広がっていることから、グローバルなシームレス化も必要となります。そのために障壁となる、国内だけで通用するような非合理的な仕組みは、海外に通用するものに変えていくことが求められ、逆に、日本で発展した高度なロジスティクスの仕組みを海外に展開することも国際社会への大きな貢献となります。



3

暮らしに安心と信頼を提供する

ロジスティクスは産業を支える機能としての側面に加え、生活を支える側面も持っています。言うまでもなく、衣・食・住のすべては物流活動が支えており、これは東日本大震災を機に改めて強く認識されたことでもあります。これまでの工業社会においては、産業基盤としてのロジスティクスの側面が特に重視されてきましたが、消費者ニーズが多様化・個別化し、情報通信技術が大衆化する成熟社会においては、消費者を起点とする、いわば生活基盤としての物流活動の重要性が高まります。そのときには例えば、企業と消費者間(BtoC)、消費者と消費者間(CtoC)を含む複雑な物流を効率的に運用する高度な物流技術が必要となります。

同時に、生活基盤としての側面から見ると、災害リスクに対する強靭さをはじめ、安心を提供し社会から信頼を得ること、即ち、従来の効率性に加えて、社会性を発揮することが、これまで以上に重要なロジスティクスの意義になると言えます。このように、ロジスティクスという概念も、企業から社会へと領域を拡張した、より上位の最適化を志向する概念に発展する必要があります。



4

環境を将来世代に引き継ぐ

さらに忘れてはならないのは、ロジスティクスの環境に関わる側面です。私たちは、良好な地球環境と地域環境を社会の最も重要な財産として、将来世代に引き継ぐ責務を負っています。その責務を果たすためには、環境との調和を最優先に考え、地球温暖化、大気汚染、廃棄物、騒音、振動等の環境負荷を軽減するとともに、エネルギーの有効活用など循環型社会を支えるロジスティクスシステムの構築が必要となります。そのためには、燃料、原材料や包装資材の選択、さらには廃棄物の処理のあり方にまで視野を拡げ、製品設計や物流システム設計時において、動脈物流とともに、使用後の製品の回収・再生処理・廃棄にかかわる静脈物流の視点を同時に持つことが重要です。



5

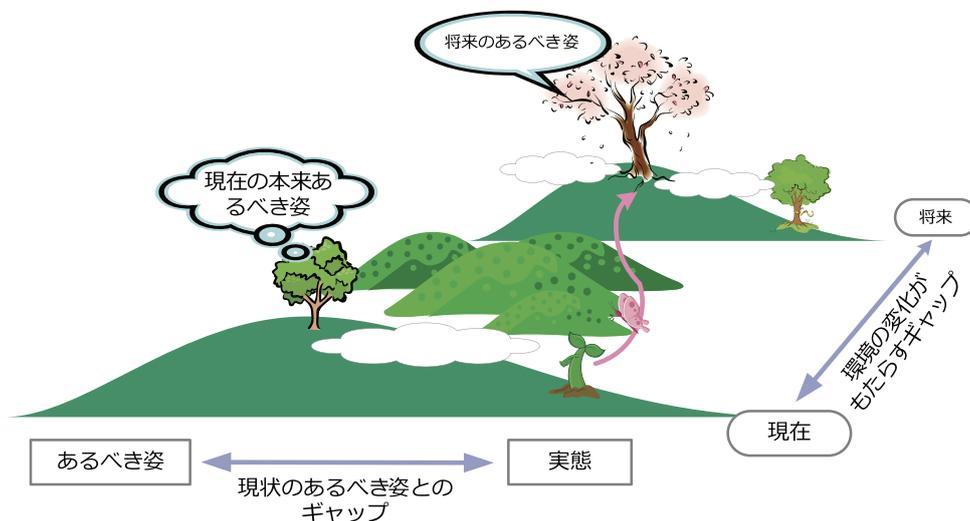
人材の価値を高める

優れた人材なくして優れたロジスティクスはあり得ません。人材の価値を高めることが、ロジスティクスの価値を高めることに繋がります。これは、マネジメントレベルだけでなく、物流現場においても言えることです。ロジスティクス人材の能力を高め、あるいは自ら成長するための仕組みづくりに加え、優秀な人材が働きたくするような職場づくりが必要です。



ロジスティクスの指針 (あるべき姿を実現するための取り組み)

これからのロジスティクスのあるべき姿を実現するため、具体的な取り組み指針を提示します。これから何をなすべきか、という「指針」は、「現状」と「将来におけるあるべき姿」とのギャップから導き出すことができます。ここでは、「ギャップ」を、(a) 現在の本来あるべき姿とのギャップと、(b) 将来への環境変化に基づくギャップという、2つの要素に分け、それぞれごとに重要な項目を拾い出し、記述することにします。



1 ロジスティクスの統合管理による全体最適化・競争力強化

ロジスティクスを機能させるためには、「全体最適」の観点から、企業内の様々な部門の機能を統合的に管理・運用することが必要ですが、現在に至るも、必ずしも実現されていないのが実態です(上記(a)の視点)。今後は、内需の縮小や、日本の産業競争力の相対的な低下により、物流やサプライチェーンの効率性が、より重要性を増すことが予想されますが(同(b))、管理が「部分最適」に留まると、高コストやムダな在庫の発生といった、ロジスティクスの非効率を生む大きな要因となると言えます。

従って、全体最適の観点から、特に連携不足が指摘される、調達物流、需給管理や製品設計等の機能も含めて、ロジスティクスの統合管理を実現するためのマネジメントの改善に取り組むことが必要です。また、統合管理を人材面で担保するために、企業内でロジスティクスのスペシャリストを育成する仕組みの構築にも取り組むべきです。

2

サプライチェーン効率化のための企業間連携の促進

サプライチェーンの効率化のためには、企業を越えた連携が求められますが、これは企業内の統合管理以上に進んでいないのが実態であり、今後の取り組みが望まれます。サプライチェーンの問題は多岐にわたりますが、ロジスティクスの観点から特に重要なのは、情報連携・可視化の問題と取引条件の問題です。

不確かな情報や曖昧な予測は非効率を生むことから、情報連携・可視化は優先的に取り組むべきテーマです。対象となる情報は業種等により異なりますが、販売実績や需要の情報、在庫の情報、物流ステータス情報等の連携を進めることが望まれます。

また、古くからある商慣習や物流を考慮しない取引条件が、非効率を招いていることも、以前から指摘されていながら、改善が進んでいません。改善すべき取引条件も業種等によって異なりますが、非効率を招いていることが明らかな配送条件や過度の鮮度志向、返品、在庫責任、費用負担等のルールについては、より合理的なものへの見直しが求められます。

3

サプライチェーンのグローバル化への対応

新興国の需要拡大や生産拠点の海外移転等により、サプライチェーンのグローバル化が進展し、輸出入量の増大、輸出入対象地域の多様化等がいつそう進むことが予想されます。ロジスティクスも、グローバル化したサプライチェーンに対応した仕組みに変化していくことが求められます。その際、グローバル市場では、荷主にせよ物流事業者にせよ、日本企業同士の横並び志向ではなく、世界的に見て卓越したロジスティクスを確立することが必要です。

具体的には、ロジスティクス管理組織の国内と海外の一体的管理への転換、人材のグローバル化といった、ロジスティクス・マネジメントのグローバル化を進めるべきです。

また、サプライチェーンのグローバル化は、ロジスティクスのサービスを海外に展開できるチャンスでもあります。物流品質の高さや JIT システムなど、日本ならではのロジスティクスの仕組み、宅配便等の日本で発展したビジネスモデルを活かし、物流事業者の海外展開を進めることは、この業界の発展につながるでしょう。

4 国内物流量減少等の社会構造変化への対応

少子高齢化といった社会構造の変化は、ロジスティクスにも様々な課題を投げかけています。まず、人口減少等に伴う国内需要の減少、国内の立地優位性の低下による海外生産の進展等により、国内物流量が減少することが予想されます。こういったトレンドに対応した、より効率的な物流システム・物流ネットワークの構築や企業間連携の促進、サービスの適正化等の対応を進めることが求められます。

一方、物流量の減少に対応するために、「量から質へ」の転換も求められます。高齢者等に対するきめ細かな宅配サービスやインターネットオークションの商品代金回収といった高付加価値なサービスの提供や、事故率が低い、定時性が高いといった高品質の物流サービスの提供などに取り組むことも新たな分野を開拓していくことにつながるでしょう。

また、人口構成の高齢化や労働人口の減少に伴い人材難が進むことが予想されます。そこで、女性や高齢者など誰でも働きやすい労働条件、就業環境の改善や、省力化・自動化の推進などをはじめ、職業としてのロジスティクスの魅力づくりも、同様に重要な課題であると言えます。

5 情報化社会への対応

これからさらに進むであろう情報化は、ロジスティクスのあり方にも影響を与えると予想されます。

例えば、インターネットを通じた BtoC、CtoC 取引の拡大は、宅配等の小口貨物の需要をさらに増大させるでしょう。また、インターネットを通じた生産者と消費者との直取引が拡大すれば、中間流通のあり方や、物流事業者の役割も変化することが予想されます。このような変化に対応した、物流サービスや物流システムの見直しを、長期的視野に立って進めることが求められます。

また、ロジスティクスのマネジメントおよびオペレーションにおける情報技術の活用も今後の課題です。具体的には、物流業務において常に重要な課題であるコスト削減や庫内作業等の生産性向上のための情報システムの活用、生産性改善・品質向上のための自動認識技術の活用、さらには物流情報システムのオープン化・クラウド化等の情報基盤の刷新にも取り組んでいくべきです。

6

リスクマネジメントへの対応

東日本大震災を機にロジスティクスの自然災害リスク対応に注目が集まっています。このたびの震災によって、私たちの社会は、ありとあらゆるリスクと背中合わせであることを再認識させられましたが、物流活動は日々の生活を支える基盤でもある以上、どのような時でも対応できることを目標にしなければなりません。今回の教訓を活かして、自然災害のリスクを再点検し、企業レベルでBCPをより実態に即したものにするといった取り組みに加え、行政機関等とも協力し、災害備蓄体制や支援物資の物流体制を構築するなど、広範囲な対策を行う必要があります。

一方で、ロジスティクスを取り巻くリスクは自然災害だけではありません。国際物流におけるテロ対策のほか、進出国の社会経済・政治体制の変動等を含め、「リスクマネジメント」をロジスティクスの重要分野として位置づけて、冗長性の確保、調達先の分散化といった様々な対策を進めることが求められます。

ただし、このような多様なリスクへの対策は、一企業では限界があるのも事実です。震災以降の行政機関からの情報提供や規制・誘導に様々な不備があったことが指摘されていますが、リスク対策を万全にするためには、業界別の縦割りの視点では埋もれがちなロジスティクスの観点での企業側の要請を、行政機関に伝えていくことにも取り組んでいくべきであり、その前提として官民の協力体制を整えることも必要です。

7

環境問題・CSR等への対応

企業の活動領域の拡大、社会に占める位置・役割の高まりに伴い、環境問題をはじめとした企業の社会的責任への対応がますます重要になります。

環境やエネルギー問題は、今後、化石燃料等の資源制約が顕在化するにともない、より顕著になると予想されます。ロジスティクス分野では、2005年の省エネ法の改正に伴い、輸送に起因するエネルギー消費の削減が進んでいますが、この取り組みを定着させるとともに、物流拠点における省エネルギーなどにも、取り組みの分野を拡げることが必要です。また、アジアなど海外における環境負荷削減に対して日本企業がハード・ソフト面で寄与することも、今後積極的に進めるべきです。

また、企業におけるコンプライアンスへの対応も、より一層求められるようになります。特に、ロジスティクスの側面では、貨物自動車運送事業法、倉庫業法といったいわゆる業法（事業を規定する法令の総称）や交通・労働関係の法規等の遵守はもちろんのこと、在庫など会計情報の正確性を確保するための取り組みや、商品トレーサビリティや貨物追跡情報の整備等にも取り組んでいくべきです。

※都合によりプログラムが変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

10月 23日 火 ・ 24日 水 ロジスティクス全国大会 2012

会場 青山ダイヤモンドホール

お問い合わせ

公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会 普及開発部
 〒105-0014 東京都港区芝2-28-8 芝2丁目ビル 3F
 TEL. 03-5484-4021 FAX. 03-5484-4031

●参加料(テキスト代を含む、消費税込)

	両日参加	1日参加
JILS会員	35,700円(1名)	21,000円(1名)
会員外	58,800円(1名)	33,600円(1名)

※有資格者優待がございます。詳細は事務局までお問い合わせください。

PROGRAM

10月23日(火)

開 会

10:00
10:05

開会挨拶

苦瀬 博仁

ロジスティクス全国大会2012 実行委員会 委員長
 東京海洋大学 海洋工学部 流通情報工学科 教授

10:05
10:25

これからのロジスティクスのあるべき姿
「ロジスティクスコンセプト2020」

徳田 雅人

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会
 専務理事

10:25
11:35

基調講演 講師依頼中

休憩

セッション A

11:45
13:05

講師依頼中

昼休み

14:05
15:25

「アリババの中国におけるEC事業展開とロジスティクスの役割」

高岡 淳二氏

アリババ(株)株式会社 タオバオ事業部 マネージャー

コーヒーブレイク

15:40
17:00

「LG物流を担うパントスジャパンのロジスティクス戦略とグローバルロジスティクスの実情」

朴 延訓氏

パントスジャパン株式会社 CS本部 本部長

10月24日(水)

10:00
10:10

ロジスティクス大賞 表彰式

主催者代表 西田 厚聡

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 会長
 株式会社東芝 取締役会長

2012年度ロジスティクス大賞 受賞記念講演

10:25
11:05

ロジスティクス大賞 努力賞

「最新システムを備え様々な機能・サービスを通じて、流通業に求められるニーズを満たすと同時に、地球環境に配慮する物流センターの実現」

船曳 貴士氏

加藤産業株式会社 ロジスティクス部

休憩

11:15
11:55

ロジスティクス大賞 環境賞

「企業間連携による一貫循環リサイクルの構築について ~車内吊り広告はトイレトペーパーに~」

富平 修司氏

株式会社ジェイアール西日本マルニックス
 取締役 物流ソリューション事業部長

休憩

12:05
12:45

ロジスティクス大賞

「TOTOの経営戦略とロジスティクスの取組み」

加藤 正行氏

TOTO株式会社 上席執行役員 物流本部 本部長

昼休み

セッション B

13:45
15:05

「トヨタ自動車九州のSCM改革への取り組みについて」(仮)

原田 聡氏

トヨタ自動車九州株式会社 工務部 部長

コーヒーブレイク

15:20
16:40

「タカラトミーにおけるロジスティクスの重要性和今後の進むべき方向性」

松田 吉康氏

株式会社タカラトミーロジスティクス 代表取締役社長

10月 18日(木) 九州ロジスティクス講演会2012

会場 ホテルセントラーザ博多

お問い合わせ

公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会 関西支部
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-2-22 ハービスENTオフィスタワー 19F
TEL. 06-4797-2070 FAX. 06-4797-2071

●参加料(テキスト代を含む、消費税込)

	参加料
JILS会員	8,400円(1名)
会員外	16,800円(1名)

※有資格者優待がございます。詳細は事務局までお問い合わせください。

PROGRAM

10月18日(木)

13:00 ┆ 13:10	開会挨拶
	加藤 正行 九州ロジスティクス委員会 委員長 TOTO株式会社 上席執行役員 物流本部 本部長
13:10 ┆ 13:25	これからのロジスティクスのあるべき姿 『ロジスティクスコンセプト2020』
	徳田 雅人 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 専務理事
13:30 ┆ 14:30	特別講演 『グローバル競争時代の日産自動車九州のSCM戦略』
	 児玉 幸信氏 日産自動車九州株式会社 代表取締役社長

休憩	
14:40 ┆ 15:40	講演1 『進化を続ける人間集団を目指して』
	安田 英行氏 高木株式会社 経営部 上席執行役員
休憩	
15:50 ┆ 16:50	講演2 『資生堂のロジスティクス戦略と新コンセプトの実現に向けて』
	神谷 学氏 株式会社資生堂 ロジスティクス部 物流推進室長
16:50 ┆ 17:00	閉会
	高田 仁氏 九州ロジスティクス委員会副委員長 九州大学大学院 経済学研究院 准教授

10月 19日(金) 中部ロジスティクス講演会2012

会場 名古屋国際会議場

お問い合わせ

公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会 中部支部
〒450-0003 名古屋市中村区名駅南4-12-17
TEL. 052-588-3011 FAX. 052-588-3012

●参加料(テキスト代を含む、消費税込)

	参加料
JILS会員	8,400円(1名)
会員外	16,800円(1名)

※有資格者優待がございます。詳細は事務局までお問い合わせください。

PROGRAM

10月19日(金)

13:00 ┆ 13:05	開会挨拶
	清水 順三 中部支部運営委員会 委員長 豊田通商株式会社 取締役会長
13:05 ┆ 13:25	これからのロジスティクスのあるべき姿 『ロジスティクスコンセプト2020』
	徳田 雅人 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 専務理事
13:25 ┆ 14:25	特別講演 『ブラザーのネットワーク&コンテンツ事業へのチャレンジ ～ミシン、情報機器からネットワーク&コンテンツ事業へ』
	 神谷 純氏 株式会社エクシング 代表取締役会長 ブラザーグループ 常務執行役員

休憩	
14:35 ┆ 15:25	講演1 『CGCグループの協業活動を支えるロジスティクス戦略』
	永田 孝司氏 株式会社シジシージャパン 商品本部物流部部长
15:25 ┆ 16:15	講演2 『これからのグローバルロジスティクスサービスに向けて』
	矢野 俊一氏 郵船ロジスティクス株式会社 代表取締役会長
休憩	
16:30 ┆ 17:20	講演3 『Eコマース最新事情とBtoC物流の動向 ～市場規模10兆円 (2012年)と躍進を続けるEコマースの最新情報を紹介～』
	高山 隆司氏 株式会社スクロール360 取締役執行役員
17:20	閉会

10月 25日(木) 関西物流改善事例発表会2012(未来を切り開く~現場力を極める~)

会場 **ヴィアール大阪**

お問い合わせ

公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会 関西支部
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-2-22 ハービスENTオフィスタワー 19F
TEL. 06-4797-2070 FAX. 06-4797-2071

PROGRAM

10月25日(木)

10:00 10:10	開会挨拶 館野 克好 関西物流改善事例発表会2012 実行委員会 委員長 大和物流株式会社 代表取締役社長
10:10 10:30	これからのロジスティクスのあるべき姿 「 ロジスティクスコンセプト2020 」 徳田 雅人 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 専務理事
10:30 10:55	事例発表1 スーパーマーケット向け店別出荷を行うピックアップの補充改善・工数削減による生産性向上 門馬 徹氏 アドバンスト・ロジスティクス・ソリューションズ株式会社 堺センター出張所 副所長
10:55 11:20	事例発表2 飲料水の物流業務における輸送円滑化とピッキングコスト低減への挑戦 ~稼働分析(ワークサンプリング)手法を用いて~ 西田 敏代氏 コカ・コーラウエストロジスティクス株式会社 中国支店 本郷LC 担当課長
11:20 11:45	事例発表3 パラ出庫業務における庫内破損の削減 ~全員参加による作業品質向上 馬谷 潤二氏 株式会社ティールエス オペレーション部 係長
11:45 12:10	事例発表4 食品の小分け集荷における生産性の向上 小柳 大介氏 国分株式会社 リーダー 大上 恭央氏 兵庫トランスポート株式会社 リーダー ☑ 昼休み
13:10 13:35	事例発表5 化学品物流子会社における船舶の省エネルギー活動 藤井 存住氏 東ソニー物流株式会社 効率推進室 主任
13:35 14:00	事例発表6 入出庫作業の見える化による生産性向上 鎌田 高広氏・斎藤 美加氏 株式会社サンリツ 現場リーダー

●参加料(テキスト代を含む、消費税込)

	参加料
JILS・日本ロジスティクス研究会会員	13,650円(1名)
会員外	22,050円(1名)

※有資格者優待がございます。詳細は事務局までお問い合わせください。

14:00 14:25	事例発表7 文具・事務用品の物流センターにおける梱包作業工数削減の取り組み 北村 宏明氏 ユニテック株式会社 統括リーダー
14:25 14:50	事例発表8 加賀麩の流通加工業務の生産性向上 (荷量増に対応するための作業方法の改善による生産性の向上) 中田 さゆり氏 株式会社エヌ・ティ・ティ・ロジスコサービス 金沢物流センター 社員 ☑ 休憩
15:00 15:25	事例発表9 場内作業の作業効率向上による積込時間の短縮 平野 嘉之氏 大和物流株式会社 奈良支店 次長
15:25 15:50	事例発表10 ならコープ物流現場における設備導入なき3S推進・生産性別ライン編成の挑戦 島谷 俊行氏 株式会社CWS 物流事業グループ マネジャー
15:50 16:15	事例発表11 ABC分析による棚レイアウトの改善 ~高頻度・低頻度区分け~ 池田 直人氏 ワコール流通株式会社 流通2課 主任
各発表者に記念品贈呈	
☑ 休憩	
記念講演 ムダに気づけば改善が変わる	
16:40 17:40	 山田 日登志氏 PEC産業教育センター 所長 [略歴] トヨタ生産方式の創始者、故・大野 耐一氏に1971年から師事し、1978年に第一線監督者の研修道場PEC産業教育センターを設立。センター設立以来、すでに10,000名が講座を修了している。
17:40 17:45	閉会挨拶 篠原 和豊 関西物流改善事例発表会2012 実行委員会 委員 日本ロジスティクス研究会 関西支部 副支部長

ロジスティクス強調月間2012 関連プログラム

資料請求FAXシート FAX : 03-5484-4031
公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 普及開発部

ロジスティクス強調月間2012に関する詳しい資料、パンフレットをお送りいたします。
ご希望の方は、以下にご記入のうえ、FAXにて事務局までお送りください。

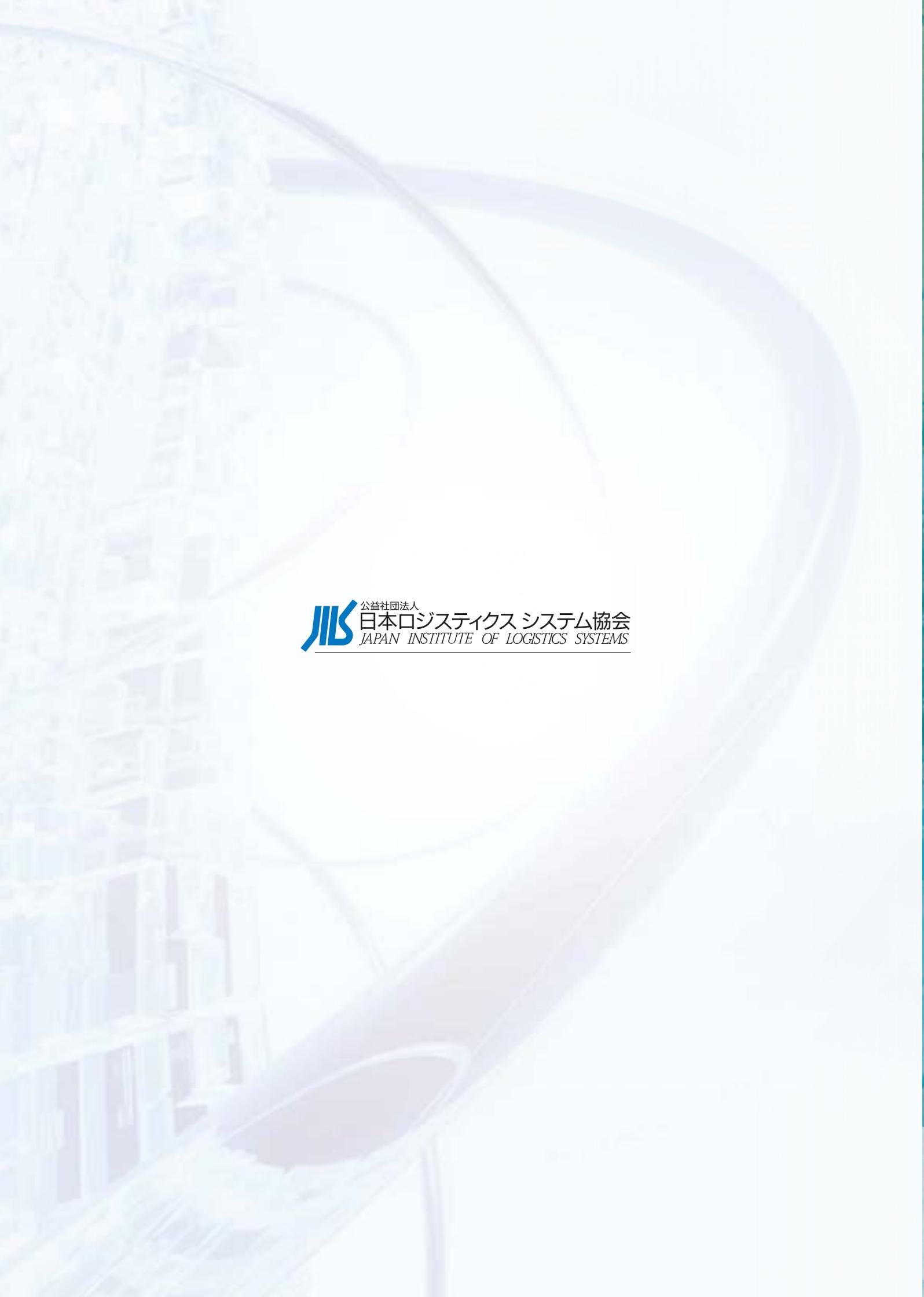
◆ご希望のプログラム、資料にチェックをしてください。

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> ロジスティクス強調月間2012ポスター | <input type="checkbox"/> ロジスティクス強調月間2012 総合案内パンフレット |
| <input type="checkbox"/> ロジスティクス全国大会2012 | <input type="checkbox"/> 関西物流改善事例発表会2012 |
| <input type="checkbox"/> 中部ロジスティクス講演会2012 | <input type="checkbox"/> 九州ロジスティクス講演会2012 |

◆上記資料ご送付先

所在地				事務局への連絡欄
会社名				
所属				
役職	氏名			
TEL	FAX			
E-mail				

※公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会では、個人情報の保護に努めております。詳細は、当協会のプライバシーポリシー(<http://www.logistics.or.jp/privacy.html>)をご覧ください。



公益社団法人
日本ロジスティクス システム協会
JAPAN INSTITUTE OF LOGISTICS SYSTEMS